

## 英語辞典にある日本語の発音 (3)

—*The Oxford Dictionary of Pronunciation for  
Current English* より—

小 林 泰 秀

### Pronunciation of Japanese Words in an English Dictionary: From *The Oxford Dictionary of Pronunciation for Current English*

Yasuhide KOBAYASHI

#### 1. は じ め に

前論文「英語辞典にある日本語の発音」(1)と(2)では『研究社新英和大辞典』(以下『研究社』)第5版と第6版に載っている日本語の発音について述べた。この辞典には、日本で発行されているためか、原語の発音を維持しようという面が窺われた。原語に近い発音を保持しながらも、他の面では英語の音韻体系に従っているのは *OED* (*The Oxford English Dictionary*) や *Webster* (*Webster's Third New International Dictionary*) についても同じである。『研究社』, *OED*, *Webster* のような古い辞典は、古典的だからといって、これまで記載されてきた発音を容易に変更、あるいは削除できるものではない。過去の記録として残すことにも、その価値があると思われる。

上記の3大英語辞典ほど過去の発音にとらわれずに、現在英語圏で用いられるようになってきた発音にも注目している辞典が、本稿で扱う

*The Oxford Dictionary of Pronunciation for Current English* (以下 *ODP*) である。『研究社』に比べて一つの語に対する代替発音が少ないのは、新しい辞典であるため、古い不使用の発音を削除し、現在使用されている発音のみ記載したためであろう。このことについて *ODP* は Preface で次のように述べている。

- (1) WE ARE DELIGHTED to offer our models and transcriptions for the pronunciation of British and American English, in what we believe to be a new manner for the new millennium. We have developed our British and American models, not as incremental improvements upon some prior practice but as the product of our long research experience as students of language variation in Britain and America. ... We believe that our wide experience with variation gives us standing to create pronunciation models which avoid slavish imitation of the dialects of self-appointed arbiters of taste or style in language, in favour of patterns which reflect the actual speech of real people. (*ODP*: vii)

*ODP* は上記のように、古い発音ではなく、現在実際に話されているモデルとなるべき発音を載せていると述べているが、話す頻度の少ない日本語の発音に関しては、従来から既存の辞書に記載されている発音は容易に削除できないし、それは *ODP* についても同じであると思われる。

*ODP* には地域名 (Hiroshima, Hokkaido, Kobe), 人名 (Ito, Kurosawa, Ozawa), 会社名 (Daihatsu, Honda, Yamaha) 等の固有名詞が多くなっている。これは最近の情報化時代を反映するものであり、同じく英語圏で発行された *OED* や *Webster* には見られないものである。また、最近発行の『研究社』第6版に固有名詞が少ないのは、日本で発行された辞典であり、自国の固有名詞の記載は不必要だからである。

## 2. *ODP* の発音記号

*ODP* にはアメリカ英語 (American English) (以下米音) とイギリス英語 (British English) (以下英音) の発音が載っている。日本語の発音を述べる前に、*ODP* での米音と英音の違いについて述べよう。*ODP* で使用している発音記号は、概して音声的であり、実際に話されているものであると次のように述べている。

- (2) Transcriptions in the text are broadly phonetic. That is, the transcriptions represent actual pronunciations, often with several variant forms per headword, not abstract sound units which include and hide potential variation. For instance, both [ru:m~rum] and [rum] are possible pronunciation for *room*, both [eks-] and [egz-] are represented for some words beginning with ex- + vowel. (*ODP*: x)

(2) で述べられている実際の発音 (actual speech) の例は *room* と *ex-* の代替発音であるが、*ODP* には他の代替発音の例として、[r] の挿入 (*law* [lɔ:(r)]), /t/ の有声化 (*better* [bedər]), /t/ 脱落 (*twenty* [twenti] → [tweni]), 共鳴音の成節化 (*button* [bʌtɪ], *bottle* [bɒtl]) などがある。/t/ の有声化に関しては、弾音 [ɾ] の方がより精密であるが、記号の複雑さを避けたのであろう。

*ODP* には実際に話される発音が記載されているといっても発音記号には制限があるので、簡略表記 (broad transcription) にならざるをえないことがある。このことについて *ODP* は次のように述べている。

- (3) A limited symbol set results in broad transcriptions, and may suggest de facto phonemicization to some readers, but our

intention is always to indicate actual sounds to be produced.

(*ODP*: x)

(3) で述べられている音素化 (phonemicization) とは、例えば、r 音色の [ɤ] (doctor [dɔktɤ]), 鼻母音の [ɛ̃] (pen [pɛ̃n]), 声門閉鎖音の [ʔ] (bottle [boʔ]) のような発音記号を用いていないということである。但し、英音ではあるが、フランス語借用語の *bon vivant* [bɔ̃ vi:vɔ̃] 「美食家, 食通」には鼻母音の記号が用いられている。『研究社』には米音、英音共に代替発音として鼻母音が載っている。

*ODP* の母音体系について述べよう。まず米音の発音から見ていく。

(4) 米音の母音 (*ODP*: x)

	Front	Central	Back
High	i		u
	ɪ		ʊ
	e		o
Mid		ə	
	ɛ		ɔ
	æ		
Low		ɑ	
diphthongs: eɪ, aɪ, ɔɪ, aʊ, oʊ			

多くの音声学の研究書は [ɑ] を非円唇低後舌母音 (low back unrounded vowel) と記述してきた。ところが *ODP* では低中舌母音 (low central vowel) となっている。これは最近の米音に見られる低母音の時計回り移動を反映したものであろう。(4) には二重母音 [aɪ], [aʊ] の [a] の位置が書かれていないが, [ɑ] が中舌母音であるので, 前舌の位置に移動したと考えられる。[ɔ] は IPA (国際音声字母) と同様, 低め中後舌母音 (lower-mid back vowel) であるが, 高め低後舌母音 (upper-

low back vowel) と記述している研究書もある。

(4) の米音母音表には [ʌ] がない。[ʌ] は一般的な英語辞典では hŭt [hʌt], móther [mʌðər] の強勢母音として示されている。しかし、ODP では中舌母音 (mid central vowel) の [ə] が用いられ、[hət], [mʌðər] である。一般に [ə] は強勢のない母音の発音であり、/r/ の前の強勢母音は bĭrd [bɜrd], cértain [sɜrtən] のように [ɜ] が用いられることがあるが、ODP では強勢のあるなしに係わらず、[ə] が用いられている。

ODP の英音は、イギリスの標準的発音である容認発音 (Received Pronunciation) に基づいており、次のようである。

(5) 英音の母音 (ODP: x)

	Front	Central	Back
High	i:		u:
	ɪ		ʊ
	e	ə	
Mid	ɛ	ʌ	ɔ:
Low	a		ɑ: ɒ
diphthongs: eɪ, ʌɪ, ɔɪ, aʊ, əʊ			

英音の母音の数が米音より一つ多いが、米音に二重母音の [a] を加えると両音共、同じ12種の母音になる。母音の数は同じでも米音と英音には大きな違いがある。一つには、英音には長母音が四つ (i:, u:, ɔ:, ɑ:) ある。二つには、米音にない [ʌ] と [ɒ] がある。[ɒ] は低後舌円唇母音 (low back rounded vowel) であり、米音の [ɑ] に対応する。米音 hot [hat] が英音では [hɒt] と発音される。両音の発音の最大の相違は円唇性にある。英語は後舌性が強い程円唇性が強いので、[a], [ɑ:], [ɒ] の三つの母音は、うしろの母音ほど円唇性が強いことになる。

米音と英音の違いの三つ目は、英音には [o] と [æ] がない。米音の boat [bout] は英音では [bəut] と発音され、米音の cat [kæt] は英音では [kat] と発音されている。米音の [æ] が [e] に近くなり、英音の [æ] が [a] に近くなっていることについて、『研究社』第 6 版には次のように書かれている。

- (6) 米音では [æ] は最近かなり大きな変動が起こっている。一つは [æ] が二重母音化して /eə/ のように二重母音化すること、もう一つは舌の位置が高くなって上の /e/ に接近して両者の区別が曖昧となる傾向である。このため to gather /təgəðə/ と together /təgəðə/ などがしばしば同じ発音に聞こえる。いっぽう英音では逆に舌の位置が低くなって [a] に近づく傾向がある。  
(『研究社』第 6 版：x iii)

『研究社』では英音も従来どおり /æ/ で示しているが、ODP は [a] で示している。最近の傾向をいち早く取り入れた発音記号である。

米音と英音の違いの四つ目は、[ə] と [a] の位置が米音と違うことである。英音では、[ə] は高め中中舌母音 (upper-mid central vowel) であり、[a:] は中舌と後舌の中間の位置にある。更に、[ə] と [ʌ] は共に中舌母音であるが、高めの [ə] と 低めの [ʌ] に分けられている。一方、米音ではこれら二つの音声は区別されずに [ə] と記載されている。

英音の母音表には、[i:] は記載されているが [i] がない。しかし、funny [fʌni], very [veri] の語末の発音は [i] となっている。このことを音素表記と音声表記の面から述べよう。[fʌni], [veri] の [i] は、音声表記であり、音素表記である弛緩母音の /ɪ/ が語末で緊張母音 [i] に発音されたものである。しかし、/ɪ/ は長母音の [i:] には発音されていない。agréé [əɡri:], trustée [trʌsti:] の語末は長母音 [i:] に発音されるが、その音素は緊張母音の /i/ であって /ɪ/ ではない。英音の母音表は、音素表記よりはむしろ音声表記であるため /i/ が書かれていない。英音で実際に話さ

れる高前舌母音 (high front vowel) は, [i:], [i], [ɪ] の三つである。/ɪ/ は語中では [ɪ], 語末では [i], /i/ は語中, 語末共 [i:] と発音される。

米音と英音を比較すると次のようになる。

(7) 母音の発音

- |   |   |
|---|---|
| 1. 米音   | 2. 英音   |
| a. [i] <u>meet</u> [mit], <u>sleep</u> [slip]       | a. [i:] <u>meet</u> [mi:t], <u>sleep</u> [sli:p]  |
| <u>sleepy</u> [sli:p]                               | <u>sleepy</u> [sli:pi], <u>very</u> [veri]        |
| b. [ɪ] <u>city</u> [sɪti], <u>fill</u> [fi]         | b. [ɪ] 左の米音に同じ                                    |
| c. [eɪ] <u>great</u> [greɪt], <u>rain</u> [reɪn]    | d. [eɪ] 左の米音に同じ                                   |
| d. [ɛ] <u>pet</u> [pɛt], <u>step</u> [stɛp]         | e. [ɛ] 左の米音に同じ                                    |
| <u>bear</u> [be(ə)r],                               | f. [ɛ:] <u>bear</u> [be:(r)],                     |
| <u>stare</u> [ste(ə)r]                              | <u>stare</u> [ste:(r)]                            |
| e. [æ] <u>cat</u> [kæt], <u>ham</u> [hæm]           | g. [a] <u>cat</u> [kat], <u>ham</u> [ham]         |
| <u>after</u> [æftər],                               | h. [a, ɑ:] <u>after</u> [aftə(r), ɑ:ftə(r)],      |
| <u>sample</u> [sæmpəl]                              | <u>sample</u> [səmpəl]                            |
| f. [u] <u>food</u> [fud], <u>boom</u> [bum]         | i. [u:] <u>food</u> [fu:d], <u>boom</u> [bu:m]    |
| g. [ʊ] <u>foot</u> [fʊt], <u>cook</u> [kʊk]         | j. [ʊ] 左の米音に同じ                                    |
| h. [oʊ] <u>boat</u> [bout], <u>toe</u> [toʊ]        | k. [əʊ] <u>boat</u> [bəʊt], <u>toe</u> [təʊ]      |
| i. [ɔ] <u>door</u> [dɔ(ə)r], <u>short</u> [ʃɔ(ə)rt] | l. [ɔ:] <u>door</u> [dɔ:(r)], <u>short</u> [ʃɔ:t] |
| j. [ɔ, ɑ] <u>bought</u> [bɔt, bat], <u>saw</u>      | <u>bought</u> [bɔ:t], <u>saw</u> [sɔ:(r)]         |
| [sɔ, sa], <u>dog</u> [dɔg, dag],                    |   |
| <u>song</u> [sɔŋ, saŋ]                              | m. [ɒ] <u>dog</u> [dɒg], <u>song</u> [sɒŋ]        |
| k. [ɑ] <u>hot</u> [hat], <u>ox</u> [aks]            | <u>hot</u> [hɒt], <u>ox</u> [ɒks]                 |
| <u>father</u> [faðər], <u>car</u> [kɑr]             | n. [ɑ:] <u>father</u> [fɑ:ðə(r)],                 |
|   | <u>car</u> [kɑ:(r)]                               |
| l. [ə] <u>bird</u> [bɜrd], <u>stir</u> [stɜr]       | o. [ə:] <u>bird</u> [bə:d], <u>stir</u> [stɜ:(r)] |
| <u>hut</u> [hət], <u>funny</u> [fəni]               | p. [ʌ] <u>hut</u> [hʌt], <u>funny</u> [fʌni]      |
| m. [aɪ] <u>nice</u> [naɪs], <u>tide</u> [taɪd]      | q. [ʌɪ] <u>nice</u> [naɪs], <u>tide</u> [taɪd]    |

- n. [ɔɪ] toy [tɔɪ], employ [əmplɔɪ]    r. [ɔɪ] 左の米音に同じ  
 o. [aʊ] house [haus], out [aʊ]    s. [aʊ] 左の米音に同じ

(5) の英音の母音表には [ə] と [ɛ] の長母音がないのであるが, (7) では bear [bɛ:(r)], stir [stɪ:(r)] と長母音 [ɛ:], [ɪ:] が記載されている。[ɛ:], [ɪ:] と [ɔ:], [ɑ:] の違いは, [ɔ:], [ɑ:] は, door [dɔ:(r)], bought [bɔ:t], father [fɑ:ðə(r)], car [kɑ:(r)] のように必ずしも /r/ が後続していないが, [ɛ:] と [ɪ:] のうしろには必ず音素 /r/ があることである。

### 3. アクセント付与

ODP のアクセントマークは『研究社』のとは異なっている。例えば, anecdote は 'anec,dote, magazine は ,maga'zine, kamikaze は ,kami'kaze 「神風」, ramen は 'ra,men 「ラーメン」のように第1強勢 ['] と第2強勢 [,] を音節の前に示している。しかし, 本稿では二つのアクセント記号を用いるのはわずらわしいので, 前稿と同じく母音の上にマークを付けてアクセントを表わすことにする。

前稿で『研究社』に載っている日本語への主強勢規則を挙げたので, 本稿では繰り返さない。ODP でもやはり主強勢付与がスペリング, つまり文字素と音節構造によることは第1強勢の付与される母音と, 付与されない母音の発音が次の (8) の語のように同じであることから明らかである。英語のように音節の重さによってのみ強勢が決められるのではなく, 高母音が非高母音かが大いに関与しているのである。次の (8) では, 左の語は下線部の母音が第1強勢を取るが, 右の語には第1強勢が付与されていない。

- (8) a. <ai> : bònsái [bànsái] 「盆栽」, sèndài [séndài] 「仙台」  
       b. <u> : tòfú [tòufú] 「豆腐」, rákù [rókù] 「楽, 楽焼」  
       c. <o> : kimóno [kiméonəu] 「着物」, shíkoku [í:kəuku:] 「四国」



bùshídó [bùʃídóu] 「武士道」, mikádo [míká:dəu] 「帝」

前稿で、『研究社』第6版ではうしろから2番目の音節が高母音であるにもかかわらず、アクセントの付与される語が第5版より増えたことを述べたが、*ODP* にはその傾向が更に強く現れている。うしろから2番目の音節が高母音である語のアクセントを見てみよう。

(9) 語末第2音節高母音のアクセント

- a.  $\dot{VC}_oV\#$  : aikido 「合気道」, Akita 「秋田犬」, Arita 「有田焼」, azúki 「あずき」, Fujitsu 「富士通」, Ishigúro 「イシグロ」, jùjitsu ~ jùjútsu 「柔術」, kabúki 「歌舞伎」, kágoshíma 「鹿児島」, Matsúi 「松井」, màtsúri 「祭り」, Mitsubíshi 「三菱」, mizúna 「水菜」, ninjútsu 「忍術」, Nogúchi 「野口」, Suzúki 「鈴木」 Tsushíma 「対馬」, yakúza 「やくざ」, Yòkozúna 「横綱」
- b.  $\dot{VC}_oVC_oV\#$  : hábutai 「羽二重」, nétsuke 「根付け」, sámisen 「三味線」, sámurài 「侍」
- c.  $\dot{VC}_oV\# \sim \dot{VC}_oVC_oV\#$  : bushído (英音) ~ búshidò (米音), Híroshíma ~ Hiróshíma 「広島」, Màtsushíta (英音) ~ Màtsushíta (米音) 「松下」, sashími (米音) ~ sáshimi (英音) 「刺身」, satsúma (米, 英音) ~ sátsuma (米音) 「薩摩焼」, seppúku (米, 英音) ~ séppuku (米音) 「切腹」

アクセントが語末第2音節に付与される語が多くなってきているが、一方では (9b) に挙げた語のように、依然として古いアクセントパターンを維持しているものもある。(9c) のように二つのアクセントパターンを取る語も、いずれは一つのパターンに統一されるのであろう。しかし、現在のように、うしろから2番目の音節に強勢を付与する規則と、うし

ろから2番目の音節が高母音であればその前の音節に強勢を付与する規則が存在している限り、二つのパターンを持ち続けるであろう。*Oxford, Webster*, 『研究社第5版』に比べればかなり語末第2音節にアクセントを付与する方向に向かっており、*ODP* には (9b) と (9c) に挙げた語以外に語末第2音節に第1強勢を取らない語は次のように数えるしかない。

(10) a. 語末強勢語

àikidó (米音) (他に aikido (米, 英音) 有り), bùshidó (英音) (他に búshidò (米音), bushído (英音) 有り),  
bònsái (米音) (他に bónsài (米), bónsai 英音) 有り),  
júdoká (米音) 「柔道家」 (他に júdokà (米音), júdoka (英音) 有り),  
fútón (英音) 「布団」 (他に fútòn (米音), fúton (英音) 有り),  
gàijín 「外人」, niséi (米音) 「二世」 (英音は nisei),  
tòfú, ùkiyo-é 「浮世絵」

b. 語頭強勢語

rómaji 「ローマ字」, Shíkoku (英音) (米音は Shikóku),  
Súbaru (米, 英音) (英音に Subáru も有り)

前稿でも述べたが、(10a) の bònsái, niséi, gàijín の語末の第1強勢は、重音節 (VV, VC) だからであり、ùkiyo-é の語末の第1強勢は「浮世の絵」という意味で「絵」が主要部であるからである。語末の音節が二つの形態素の主要部としてみなされる語は他に àikidó, bùshidó, júdoká がある。つまり、「合気の道」、「武士の道」、「柔道の達人」のように二つの形態素から成り立つ語と考えるものである。一方, júdo 「柔道」, kéndo 「剣道」の <o> には強勢がない。これら2音節語は二つの形態素には分けられていない。また àikidó や bùshidó のような3音節語は、強弱強の好リズムパターンである。説明の難しいのが tòfú の語末に付く第1強勢である。参考までに aikido, bushido, tofu のアクセントを他の辞典で見よう。*LPD* は *Longman Pronunciation Dictionary*, 『ジーニアス』は

『ジーニアス和英大辞典』である。

- (11) a. akido : *OED* aikido, 『研究社』 aikidó (第5版), aikído (第6版), *LPD* aikído (米, 英音) ~ aikidó (米音) ~ aikido (英音), 『ジーニアス』 aikido
- b. bushido : *OED* búshido, *Webster* búshidò, 『研究社』 Búshido (第5版, 6版米音), Bushído ~ Bùshidó (第6版英音), *LPD* Búshido (米音), Bushído ~ Bùshidó (英音), 『ジーニアス』 Búshidó ~ Búshido (米音), Bùshidó (英音)
- c. tofu : *OED* tófu, *Webster* tófu, 『研究社』 tófu, *LPD* tófu  
『ジーニアス』 tófú

他の辞典を見ても aikido, bushido のアクセントは流動的であるが、語末第1強勢は主要なパターンではない。tòfú は他の辞典にはなく、例外的なアクセントであることが分かる。*ODP* を見ても fúgu 「ふぐ」, júku 「塾」 など語末の <u> にはアクセントが付いていない。

(10b) の語はうしろから2音節の母音が <a> と <o> であるにもかかわらず、3音節語の語頭に第1強勢が付いている。rómaji のアクセントについては前稿でも述べたが、Rome への類推であろう。Shikoku, Subaru は *OED*, *Webster*, 『研究社』, 『ジーニアス』 には載っていないが、*LPD* では Shikoku, Súbaru のアクセントがついている。語頭へのアクセントは例外的であり、今後3音節の語頭にアクセントの付く語が増えていくのかは明らかでない。

*ODP* にある日本語の語彙数からすると、第1強勢が付与される規則の適用は、語末第2音節への付与が断然多く、以下は次のような順位になる。

## (12) 主強勢規則の適用順位

1. うしろから2番目の音節に強勢を付与する。
2. うしろから2番目の音節が <a> か <o> でないなら、その前の音節に強勢を付加する。
3. 語末の <VV> と <VN> の音節に強勢を付与する。  
(bònsái, gàiín, niséi の3語)
4. 語の主要な形態素に強勢を付与する。  
(àikidó, bùshidó, ùkiyo-é の3語)
5. 3音節語の語頭に強勢を付与する。  
(rómaji, Shíkoku, Súbaru の3語)
6. 語末に強勢を付与する。(tòfú の1語)

(10a) の語を見ると、一見米音の方が語末に第1強勢を置くように思われるが、必ずしもそうではなく、はっきりした違いとは言えない。両音の違いは、第1強勢よりはむしろ第2強勢の付与にある。前稿で述べたように、第2強勢は第1強勢の位置によって決められる。まず最初に、第1強勢の前に第2強勢の付与される語を見てみよう。

## (13) 語頭への第2強勢付与

## a. 第1強勢直前の母音への付与

bònsái (米音), fùtón [fù:tón] (英音), gàiín (英音),  
gòbáng [gòubáng] (英音)「碁盤」, mǎtsúri [mǎetsúri] (米音),  
Mǎtsúshita [mǎetsúʃidə], tòfú [tòofú]

## b. 第1強勢より2音節前の母音への付与

àikidó (米音), bùshidó (英音), Fùjiyáma「富士山」, hàr-  
kíri「腹切り」, hìragána「ひらがな」, Hirohito「裕仁」,  
Hiroshíma, ikebána「生け花」, Íshigúro, kàkemóno「掛け  
物」, kàmikáze, kàraóke「カラオケ」, kàtakána「カタカナ」,  
Kāwasáki「川崎」, Kūmamóto「熊本」, Kūrosáwa「黒澤」,

Mātsushita, Mātsuyāma 「松山」, Mēiji Ténno 「明治天皇」,  
Mitsubishi, Nāgasāki 「長崎」, ōrigāmi 「折り紙」, shākuhāchi  
「尺八」, sukiyāki 「すき焼き」, Sūmitōmo 「住友」, tēriyāki  
「てりやき」, Tōkugāwa 「徳川」, Yāmamōto 「山本」, Yōko-  
hāma 「横浜」, yōkozūna 「横綱」

c. 第1強勢より3音節前の母音への付与

ūkiyo-é

cf. *OED* ukiyo-é, *Webster* ukiyo-è, 『研究社』 ukiyo-é (第5版) ~ ūkiyo-é (第6版), 『ジーニアス』 ukiyo-è

(13a) のように直前の音節に第2強勢が付与されるのは、その音節が重音節であるのが普通である。ところが māt<sup>s</sup>ūri と Mātsūshita の <a> には、短母音 [æ] に発音されているにもかかわらず強勢が付与されている。日本語の <a> に強勢を付与するのは、はっきりと強く発音するためである。一方、英語の magnetic [mægnédɪk], Manhāttan [mænhæt̩n] の [æ] には第2強勢が付与されていない。日本語の発音と違って、強勢のある音節の前の母音は Macdonald [mækdónəld], machine [məʃɪn] のように曖昧母音の [ə] に発音されることもあり、非強勢音節と認識されている。

(13b) の語のように2音節前の母音に強勢を付与するのは、強弱強のリズムを作るためである。強勢の付与される母音は, hāra-kiri [hārəkiri], hiragāna [hiragónə], Kūrosāwa [kūrōsāwə] のように長母音や二重母音でなくても良い。第1強勢の2音節前には必然的に第2強勢が付与されるのが英語である。ところが原語の発音の影響を受け、第2強勢を付与しない語がある。「すき焼き」は原語では [sukijāki] と発音され、/su/ の /u/ は無声音になる。通常無声母音にアクセントは付かないので、*ODP* では [sukijāki] と表記されている。これは英音であるが、この場合英語話者は [u] を発音していないと思われる。もしそうであれば、[skijāki] と表記するのが正しい。英語話者は通常 [sukijāki] とは発音しないし、発音できない。辞書の記載どおり [u] を発音しているのであ

れば、英語にはリズムがあるので [sòkijóki] と強弱強リズムで発音するはずである。

無声母音にアクセントの付かない例として、良く「三越」が引用される。[mitsu<sup>h</sup>ko<sup>h</sup>i] は母音が無声化するために、第2音節は低く発音されるが、[mitsubi<sup>h</sup>i] 「三菱」は [u] が有声音であるので高く発音されるというものである。これは「すき焼き」の発音と共通している。

(13c) の ùkiyo-é のアクセントについては前稿で述べたが、ukiyo-é の弱強弱強パターンよりも強弱強パターンを取ったものである。英語にも àristocrátic (米, 英音) ~ aristocrátic (英音), Ticonderóga (米, 英音) ~ Ticònderóga (英音) の二つの強勢パターンがあるのと同様である。

第2強勢の付与される語を見てきたが、第1強勢の前に第1強勢の付与される語がある。

(14) 語頭への第1強勢付与

Íshigúro (米音), Kágoshíma (米, 英音), Meiji Ténno  
[merídzí ténòu] (米音), shákuháchi (米音)

(14) の4音節語は、強弱強パターンであるが、語頭の母音に第1強勢が付いている。英語の disaffécted (米音) や nóninvolvement (米音) のように接頭辞に第1強勢の付いた語と同じパターンである。第1強勢二つで強弱強リズムを作るのは米音の特徴であり、英音では通常第2強勢と第1強勢の強弱強パターンとなる。(14) の例で Kágoshíma だけが英音のアクセントにもなっている。米音への類推であろう。(14) の語は英音では Íshigúro, Mèiji Ténno, shákuháchi のアクセントとなる。

第2強勢が第1強勢のうしろに付加される語を見てみよう。ODP では米音にのみ見られるパターンであり、英音では第1強勢母音の後の母音が強勢を取ることはない。例えば, mandatory [mándə̀tò̀ri] (米音), [mándə̀tə̀(r)i] (英音) と library [láibrə̀ri] (米音), [láib(rə̀)ri] (英音) を見ても、英音には第2強勢が付いていない。これは日本語に対してもし

同じであり、次の語のように第1強勢のうしろに第2強勢が付与されるのは米音である。

(15) 語末への第2強勢付与 (米音)

a. 第1強勢直後の母音への付与

bónsài, dójò「道場」, fútòn「布団」, gétà<sup>ˈ</sup>「下駄」, hái<sup>ˈ</sup>kù  
「俳句」, Hokkáidò「北海道」, Hónshù「本州」, Ìshigú<sup>ˈ</sup>rò,  
Itò「伊藤」, kánbàn「看板」, kóan「公案」, kyótò「京都」,  
Mèiji Tén<sup>ˈ</sup>nò, ninjúsù, Níppòn「日本」, Níssàn「日産」,  
rá<sup>ˈ</sup>mèn, Sákài「境」, Séndài, shiátsù「指圧」, Shikókù,  
Tókyò「東京」, Yáyòì「弥生」

b. 第1強勢より2音節うしろの母音への付与

búshidò, hábutài, háppi-còat「はっぴ」, júdoka「柔道家」,  
sámisen, sámurài, séppukù, Súbarù「スバル」, tórii「鳥居」,  
Yámahà「ヤマハ」

(15a) の語で、なぜ第2強勢が語末に付くのか判断できない語がある。前稿から再三述べているが、二重母音 (<ai>, <oi>) や閉音節 (<on>, <an>) のように二つのモーラから成り立っている音節には強勢が付与され易い。実際 ODP では ryókan「旅館」以外は、すべての重音節に強勢が付いている。問題は、(15a) の語には語末の <o>, <u>, <a> に強勢が付くが, básho「場所」, fúgu, kána「かな」の語末になぜ付かないかである。一般性のある規則を見つけるのはむずかしい。

(15b) の第2強勢は強弱強リズムを保つためである。ODP では第1強勢の2音節前には第2強勢が必然的に付与されるが、2音節うしろの音節は必ずしも強勢を取らない。次の語がそうである。

(16) a. Hiróshima, Màtsúshita, sátsuma, témpura「てんぷら」

b. rómaji

(16a) の語の第 1 強勢の次には <無声子音+高母音> の音節が来ているが、音節自体が短く聞こえるため語末の音節が第 1 強勢に近く感じられるのであろう。しかし、(15b) の *búshidò, séppukù* には <無声子音+高母音> の次の音節に強勢があるので、決めつけることはできない。(16b) の *rómaji* は語末が <i> なので強勢の付かないのが普通である。(15b) の *tórii* の語末に強勢が付くのは、その前の <i> と区別するためであらう。英音の [tɔ:ri:] の発音であれば、強勢の付与がなくても [ɪ] [i:] に区別されるが、米音では [tɔrii] であり同じ音声の [i] が二つ並んでいる。語末に強勢を付与してリズムを作っているのである。

## 4. 発 音

### 4.1 嵌入の r

『研究社』にはないが、*ODP* の英音では随意的に語末に [r] を挿入する語がある。この [r] は本来あるはずのないものであり、余剰的に添加されたものである。*ODP* ではこれを嵌入の r (intrusive r) と呼んで<sup>かんにゅう</sup>いるが、剰音の r (excrement r) とも呼ばれている。嵌入の r について *ODP* は次のように述べている。

- (17) Intrusive <r> is a 'linking' <r> which is unhistorical and which is therefore not supported by orthography. For example, *law* in the phrase *law and order* is in BR frequently [lɔ:r] (i.e. [lɔ:r an(d) ɔ:də]). Long condemned by teachers of pronunciations, this is nevertheless a firmly established feature of today's mainstream RP: it is indicated in transcriptions by means of a convention similar to that for linking <r>, that is by parentheses, so that *law* is transcribed [lɔ:(r)], but with [r] italicized.

(*ODP*: x ii)



(17) に述べられているように、嵌入の *r* は次の母音で始まる語に結びつく連結の役割をなしているが、語源的に裏付けされていないので、綴り字には表れていない。RP では *r* 挿入が主流であり、*law and order* は [lɔ:r an(d) ɔ:də] と発音される。*order* の語末の <*r*> は次に母音で始まる語が来ていないので発音されない。ODP では *law* の嵌入の *r* をイタリックで [lɔ:(*r*)] と表わし、*order* の語末の <*r*> は元来綴り字にあるので [ɔ:də(*r*)] と普通の活字で表わして、二つを区別している。

語末で [r] が発音されるかどうかは、次のように語末音節の母音による。次の語は ODP の英音である。

(18) 語末の [r]

- a. [ə]: dilemma [dɪləmə(*r*)], extra [ékstrə(*r*)], idea [ʌɪdɪə(*r*)],  
India [índiə(*r*)], Korea [kəríə(*r*)]  
[ɔ:]: draw [frɔ:(*r*)], saw [sɔ:(*r*)]  
[ɑ:]: schwa [ʃwɑ:(*r*)], spa [spa:(*r*)]
- b. [ə]: confer [kənʔá(*r*)], transfer [tránsʔə:(*r*)]  
[ɛ:]: air [ɛ:(*r*)] (米音は [ɛ(ə)r]), bare [be:(*r*)] (米音は [be(ə)r])
- c. [i:]: agree [əgrí:], pea [pi:]  
[ɪ]: ability [abɪlɪti], ginea [gíni]  
[ɪ]: reply [rɪplá:], Monday [mándaɪ]  
[u:]: bamboo [bàmbú:], shampoo [ʃámpú:]

(18a, b) のように、語末の *r* は非高母音のうしろに来ている。従って、英音では尾子音の [r] は中母音と低母音のうしろにのみ生ずることになる。(18a) の [r] は嵌入の *r* であり、(18b) の [r] は歴史的に存在する *r* である。嵌入の *r* は語末母音 [ə], [ɔ:], [ɑ:] に添加されているが、(18b) の [ə] と [ɛ:] も中母音なので [r] の挿入があってもおかしくない。しかし、[ə] と [ɛ:] の発音は綴り字 <*r*> の前にしか生じないので、嵌入の *r*

が適用されたとは考えない。RP 話者は, [spa: r] and health の発音からは, [spa: r] が spa 「温泉」なのか spar 「スパーリング」なのか分らないのである。

(18c) は語末母音が高母音であるため r が挿入されない例であるが, 英語では高母音が核音である音節では r が尾子音になることはない。綴り字では souvenir や sure は高母音であるが, 発音は [sù:vənɪə(r)], [ʊə(r)/ʃɜ:(r)] であり [r] の直前は高母音ではない。シュワー[ə]が挿入されている。このことは, RP 話者が尾子音の r を認識するのは, スペリングよりも発音によってであると言えよう。

r の挿入は日本語借用語にも同様に见られる。

#### (19) 嵌入の r

- a. [ə]: Akita [ɑ:kítə(r)], geisha [géiʃə(r)], hiragana [hìrəgá:nə(r)], ikebana [ikébá:nə(r)], ninja [nindʒə(r)] 「忍者」
- b. [ɑ:]: Yamaha [jáməhɑ:(r)]

高母音以外に語末に来る母音は, 日本語では [ə] と [ɑ:] だけであり, その文字素は <a> である。日本語への r 挿入は語末が <a> の場合であるが, RP 話者はスペリングよりも発音に対して r を挿入していると考ええる。日本語に英語の発音規則を適用した例である。

## 4.2 米音と英音の強勢母音

日本語の文字素に対する発音を米音と英音を比較しながら見ていこう。まずアクセントのある母音を見てみる。

#### (20) <i> の強勢母音

- a. [i] 米音, [i:] 英音

ai·kí·do [aikídoʊ] (米音), [Aɪ·kí·dəʊ] (英音), Aríta, Íto,  
Kàgoshíma, Nísei, Tsushíma

b. [ɪ] 米音, 英音共

Fu·jít·su [fu·dʒít·su] (米音), [fu:·dʒít·su:] (英音), gai·  
jín, Ísh·i·gú·ro [iʃ·i·gú·rəʊ] (米音), [iʃ·i·gúə·rəʊ] (英音),  
Ju·jít·su, nín·ja, Níp·pon, Nís·san, pa·chín·ko, Shín·to

c. [i] 米音, [ɪ] 英音

Mitsubíshi [mít·so·bí·ʃi] (米音), [mít·so·bí·ɪ] (英音)

d. [ɪ] 米音, [i:] 英音

Hirohíto [hìr·oʊ·híd·oʊ] (米音), [hìr·ə·hí·təʊ] (英音)

アクセントのある <i> は開音節にあれば (20a) の語のように緊張母音 [i(:)] に発音され、閉音節であれば (20b) の語のように弛緩母音 [ɪ] に発音される。(20c) の米音、英音の発音の違いから、<sh> は特に英音では尾子音になる性質があるのが分る。英音では Íshigúro も Mitsubíshi も <ish> は [ɪ] と発音されるが、米音には [ɪ] と [i:] の二つの発音が見られ、一貫性がない。(20d) の発音の違いも音節構造の違いによるものである。<ɹ> を [d] と有声音に発音する米音は、[d] を尾子音化したと考えられる。これは <ɹ> の発音によって thirteen [θəɹ·tín] と thirty [θəɹd·i] に音節区分することと同じである。この音節区分は LPD のものであるが、強勢のある音節にその直後の頭子音を移動して重音節にするやり方は、前稿で述べた Selkirk (1982) の再音節化である。

(21) <a> の強勢母音

a. [a] 米音, [ɑ:] 英音

hì·bá·chi [hə·bá·tʃi] (米音), [hɪ·bá·tʃi] (英音) 「火鉢」,  
hiragána, kà·ke·mó·no, ráku, rámen, Sákai, sáke 「酒」,  
Shá·ka, shàkuháchi, shiátsu, tèriyáki, Tòkugáwa

b. [æ] 米音, [a] 英音

háp·pi [háep·i] (米音), [háp·i] (英音), Mát·su·shí·ta,  
sám·i·sen, sám·u·rai, Sán·yo, kàk·e·mó·no [kæk·ə·  
móu·noo] (米音のみ), shi·át·su [ʃi·át·su:] (英音のみ)

c. [a] 米音, [a] 英音

Daihátu [dai·hát·su] (米音), [dʌi·hát·su:] (英音), nun·  
cháku [nən·tʃák·u] (米音), [nʌn·tʃák·u:] (英音), shiátu  
[ʃi·át·sù] (米音), [ʃi·át·tsu:] (英音)

(21a) の強勢音節は開音節であり, (21b) の強勢音節は閉音節である。  
(21b) の kakemono の [kæk] が閉音節になるのは, 無声破裂音 [k] を尾  
子音に移動したためである。(21c) の shiatsu の <at> の音節区分は, 米  
音の方が <t> と <s> の間に音節境界を置く傾向が強いことを示している。

(22) <u> の強勢母音

a. [u] 米音, [u:] 英音

a·zú·ki [ə·zú·ki] (米音), [ə·zú:·ki] (英音), fúgu, Fúji,  
fúton, kabúki, matsúri [mætsúri] (米音), [matsú:ri] (英  
音), ryú

b. [u] 米音, 英音共

júk·u [dʒók·u] (米音), [dʒók·u:] (英音), Kùr·o·sá·wa

c. [ə] 米音, [ʌ] 英音

nin·jút·su [nin·dʒət·sù] (米音), [nin·dʒát·su:] (英音)

d. [u] 米音, [u:] 英音

sùkiyáki [sòk·i·já·ki] (米音), [sù:·ki·já:·ki] (英音)

e. [u] 米音, [u] 英音

bú·shi·dò [bú·ʃi·dòu] (米音), bùsh·i·dó [bòʃ·i·dóu] (英  
音)

(22a) の強勢母音は開音節の発音であり, (22b) の弛緩母音は閉音節の

発音である。(22b) の Kurosawa の <u> が [u] に発音されるのは、英語では cure [kju(ə)r] と <u> の前の母音は常に弛緩母音に発音されるからである。(22a) の matsuri は英語ならば [mætsú(ə)ri] と発音されるであろう。(22a) の発音は日本語に近くなるようにていねいに発音したものである。(22c) の ninjutsu は、中中舌母音の米音と英音の違いを反映している。(22d, e) は、述べたように [k] や [j] は尾子音になり易いことを表わしている。

(23) <o> の強勢母音

a. [ou] 米音, [əu] 英音

dó·jo [dóu·dʒòu] (米音), [dáu·dʒəu] (英音), kàkemóno, kàraóke, kimóno, Kóbe, kóto, Kyóto, rónin, shógun

b. [a] 米音, [ɒ] 英音

bón·sai [bán·sàɪ] (米音), [bón·sɒɪ] (英音), hón·cho, Hón·da, Hón·shu (cf. fú·ton)

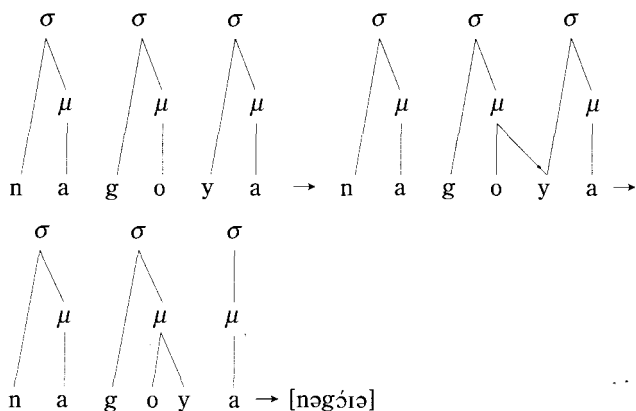
c. [ɔ] 米音, 英音共

Na·góy·a [nə·góɪ·ə] (米音), [nə·góɪ·ə(r)] (英音) 「名古屋」

<o> は米音では [ou] に、英音では [əu] になるのが圧倒的に多い。(23b) の [a] と [ɒ] の発音は、尾子音 <n> の前にある。この発音は cf. (confer) の fúton [f(j)útàn] (米音), [f(j)ú:ton] (英音) のようにアクセントには関係がない。(23c) の <y> の前の [ɔ] は、1 音節内の <oy> を [ɔɪ] と発音しているのであり、前稿で述べた再音節化が適用されている。

Nagoya の発音は次のように派生される。

## (24) Nagoya の再音節化



文字素そのものが二重母音に発音されるのは <ai>, <ei>, <oi> の三つであり, アクセントに関係なくそれぞれ [aɪ/ʌɪ], [eɪ], [ɔɪ] と発音される。

## (25) 二重母音

- a. [aɪ] 米音, [ʌɪ] 英音

aikido [aɪkidoʊ] (米音), [ʌɪki:dəʊ] (英音), Áinu, bónsai,  
gaijín, háiku, Hokkaido, sámurai

- b. [eɪ] 米音, 英音共

geisha [géɪʃə] (米音), [géɪʃə(r)] (英音) 「芸者」, Méiji  
Ténno, nísei

- c. [ɔɪ] 米音, 英音共

kói [kɔɪ] (米音), [kɔɪ] (英音), Yáyoi

(25a) の [aɪ] と [ʌɪ] の違いは, 例えば英語の nice が [naɪs] (米音) と [nʌɪs] (英音) に発音されるのと同じである。

## 4.3 &lt;Vr&gt; の発音

強勢高母音の <i> と <u> の次に <r> のある <Vr> の発音は、一般的に米音では [Vr] と短母音であり、英音では [Vər] と二重母音になる。これは英語の発音であるが、日本語にも同様の発音がなされる語がある。英語と日本語の発音が同じ語と異なる語を見てみよう。

## (26) &lt;ir&gt; の発音

- a. 英語 : [ɪr] 米音, [ɪər] 英音  
 déary [dɪri] (米音), [dɪəri] (英音), jéeringly [dʒɪrɪŋli] (米音), [dʒɪərɪŋli] (英音)
- b. 日本語 : [ɪr] 米音, [ɪər] 英音  
 hira-gána [hirəgána] (米音), [hɪərəgá:nə(r)] (英音), Kírin [kírɪn] (米音), [kɪərɪn] (英音)
- c. 日本語 : [ɪr] 米音, 英音共  
 hàra-kíri [hərəkíri] (米音), [hərəkíri] (英音), hira-gána, Hirohito, Hiroshima

(26c) の語が英語であれば、英音では通常 [ɪər] と発音される。(26c) の発音は日本語に近づけた <CV> 音節の発音である。

## (27) &lt;ur&gt; の発音

- a. 英語 : [ʊr] 米音, [ʊər] 英音  
 cúrable [kjúərəbəl] (米音), [kjúərəbəl] (英音), cúrious [kjúriəs] (米音), [kjúəriəs] (英音)
- b. 日本語 : [ʊr] 米音, [ʊər] 英音  
 tempúra [tempúra] (米音), [tɛmpúə(r)] (英音)
- c. [ʊr] 米音, 英音共  
 Kùr·o·sá·wa [kùrəsáwə] (米音), [kùrəsá:wə(r)] (英音)

- d. [ur] 米音, [ʊər] 英音

ĩ·shi·gú·ro [ĩʃígúróʊ] (米音), [ĩʃígúəréʊ] (英音)

- e. [ur] 米音, [u:r] 英音

mat·sú·rì [mætsúrí] (米音), [matsú:ri] (英音)

- f. [ər] 米音, [ʊr/ər] 英音

sám·u·ràì [sæmərəì] (米音), [sám(j)ʊrɹɹɪ] (英音), tém·  
pu·ra [témperə] (米音), [tém(pə)rə(ŋ)] (英音)

(27f) だけが <ur> の <u> にアクセントがない語である。<ur> の <u> が弛緩母音 [ʊ] に発音される (27c) の語では [r] は尾子音とみなされ、緊張母音 [u/u:] や二重母音 [ʊə] と発音される (27d, e) の語では [r] はうしろの音節の頭子音とみなされる。日本語についてはそれで良いのであるが、英語の場合は、米音が弛緩母音であり、英音が二重母音であるので、[r] が尾子音か頭子音か決めるのは簡単ではない。実際、(27a) の curable と curious にしても、次の (28) のように音節の区切りは辞書によって異なっている。Longman は *Longman Dictionary of Contemporary English* (1990) である。

- (28) a. cú·a·ble: 『研究社』, Webster, LPD, 『ジーニアス』

b. cú·ra·ble: Longman

c. cú·i·ous: LPD

d. cú·ri·ous: 『研究社』, Webster, Longman, 『ジーニアス』

Longman は curable と curious の cu- が [kjoə] と二重母音に発音されるため CV- で音節区分し、LPD は米音では cur- が [kjʊr] であり、<u> は基底形が短母音とみなされるので cur- で区分している。一方『研究社』, Webster, 『ジーニアス』は curable を cur-, curious を cu- で音節区分している。これは curable の -able を接尾辞とみなしているからである。このように <cur> の発音が同じにもかかわらず、辞書によっては音節区



分に違いがある。

非高母音の次に <r> が来る発音を見てみよう。

(29) <or> の発音

- a. 英語 : [ɔ(ə)r] 米音, [ɔ:r] 英音  
 tóre [tɔ(ə)r] (米音), [tɔ:(r)] (英音), tórment [tɔrmənt] (米音), [tɔ:ment] (英音)
- b. 日本語 : [ɔ:r] 米音, [ɔ:r] 英音  
 satóri [sətóri] (米音), [sətɔ:ri] (英音) 「悟り」, tórii [tórii] (米音), [tɔ:rii] (英音), zóri [zóri] (米音), [zɔ:ri] (英音)
- c. 英語 : [ɔ:r] 米音, [ɔr] 英音  
 órigin [ɔrdʒən] (米音), [ɔrdʒ(ɪ)n] (英音), sonóritý [səɔ́rɪtɪ] (米音), [səɔ́rɪtɪ] (英音)
- d. 日本語 : [ɔ:r] 米音, [ɔr] 英音  
 òrigámi [ɔrəgámi] (米音), [ɔ́rɪgá:mi] (英音), zóri [zóri] (米音), [zóri] (英音)

(29) の例は米音, 英音間での <or> の発音の違いを表わしている。英語の発音がそのまま日本語に適用されている。(29a) の tóre [tɔ(ə)r] (米音) のシュワー挿入は <r> が語末の場合である。

(30) <ar> の発音

- a. 英語 : [ɑr] 米音, [ɑ:r] 英音  
 fàrawáy [fàrəwéi] (米音), [fɑ:rəwéi] (英音), càrpet [kárpət] (米音), [ká:rpɪt] (英音)
- b. 日本語 : [ɑr] 米音, [ɑ:r] 英音  
 Nára [nára] (米音), [ná:rə(r)] (英音)
- c. 英語 : [ɛr] 米音, [ar] 英音  
 carry [kéri] (米音), [kári] (英音), marry [méri] (米音),

[má:ri] (英音)

- d. 日本語 :[er] 米音, [ar] 英音

hàra-kíri [hèrəkí:ri] (米音), [hàrəkí:ri] (英音)

- e. 英語 :[ər] 米音, 英音共

aróund [əráund], arrést [ərést]

- f. 日本語 :[ər] 米音, 英音共

Aríta [ə:ridə] (米音), [ə:ri:tə(r)] (英音), karáte [kə:rádi] (米音), [kə:rá:ti] (英音), Súbaru [súbərú] (米音), [sú:bəru:] (英音)

(30d) の hàra-kíri には他に米音として [hèrəkéri] もあるが, [kér] は [her] への母音調和であろう。<ar> も日本語のスペリングが英語のスペリングに対応し, 英語と日本語の発音が同じになっている。

ODP によると, 米音では marry, merry, Mary が共に [meri] と発音されるが, 英音では marry は [mari], merry は [méri], Mary は [me:ri] とそれぞれ発音が異なっている。Mary は仮名で「メアリー」と書くように, 『研究社』の発音では /mɛ̃ːri/ (米音), /mɛəri/ (英音) となっている。

### (31) <er> の発音

- a. 英語 :[er] 米音, 英音共

ferry [fé:ri]

- b. 日本語 :[er] 米音, 英音共

tèriyáki [tèrijá:ki] (米音), [tèrijá:ki] (英音)

ここで <Vr> の発音を取り上げたのは, /r/ の前での母音は, その発音が多様化しているからである。hurry [həri] (米音), [hʌri] (英音) や worry [wəri] (米音), [wʌri] (英音) のように, 強勢母音が中中舌母音になることは日本語の発音にはない。日本語の発音は, 基本的に五つであ

ると認識されているためである。

## 5. お わ り に

辞典の発音記号をどの程度信じればよいのか、どの辞典の発音記号が正しいのか、という疑問は、辞典に多く接すればするほど増す。辞典に書かれているものは絶対的なものであり、事実を的確に伝えているという考えは誰も持っている。だから、二つの辞典が異なる記述、説明をしているのに出会った場合、我々は一方を捨て、他方を取るという気にはなれない。二つを比べて見て、両者の違いについて考えてみるであろう。

今回の3回にわたる論文では、主に『研究社』と ODP を使用した。両辞典の違いは我々の想像以上のものであった。別の辞典を使うと、また別の顔が現れるであろう。辞典はそれなりに整った顔をしていて、独自の特徴を出そうとしている。辞典の色々な顔に魅せられて発音記号の研究を続けていくと、何回シリーズになるのだろうか。

### *The Oxford Dictionary of Pronunciation for Current English* に載っている日本語の音声記号

	米音	英音	日本語
aikido	[aɪkɪdɔʊ] [aɪkɪdóʊ]	[ʌɪkɪːdəʊ]	合気道
Ainu	[áɪnù]	[ʌɪnu:]	アイヌ族
Akita	[akɪdə]	[ɑ:kɪ:tə(r)]	秋田犬
Arita	[əɾɪdə]	[əɾɪ:tə(r)]	有田焼
azuki	[əzúki]	[əzú:ki]	あずき
basho	[báʃɔ]	[báʃəʊ]	場所 (相撲)
	[báʃou]		
bonsai	[bánsàɪ]	[bónsàɪ]	盆栽

	[bànsái]		
bushido	[bú idòu]	[bu í:dəu]	武士道
		[bò idəu]	
Daihatsu	[daihátsu]	[dʌihátsu:]	ダイハツ
dojo	[dóudʒòu]	[dóudʒəu]	道場
Edo	[idou]	[édəu]	江戸
	[édou]		
fugu	[f(j)úgu]	[fú:gu:]	ふぐ
Fuji	[fúdʒi]	[fú:dʒi]	富士
Fujitsu	[fudʒítsu]	[fu:dʒítsu:]	富士通
Fujiyama	[fudʒijámə]	[fú:dʒijá:mə(r)]	富士山
futon	[f(j)útàn]	[f(j)ú:ton]	布団
		[f(j)ù:tón]	
gaijin	[gaídʒín]	[gʌídʒín]	外人
		[gʌídʒín]	
geisha	[géi ə]	[géi ə(r)]	芸者
	[gi ə]		
geta	[gétà]	[gétə(r)]	下駄
gobang	[goubáng]	[gòubáng]	碁盤
habutai	[hábətài]	[há:botʌi]	羽二重
		[há:bətʌi]	
haiku	[háikù]	[hʌiku:]	俳句
happi	[hæpi]	[hápi]	はっぴ
happi-coat	[hæpikòut]	[hápi:kəut]	はっぴ
hara-kiri	[hèrəkíri]	[hàrəkíri]	腹切り
	[hèrəkéri]		
hibachi	[həbátʃi]	[hɪbátʃi]	火鉢
		[həbátʃi]	
hiragana	[hìrəgána]	[hìrəgá:nə(r)]	ひらがな

		[hìərəgá:nə(r)]	
Hirohito	[híroʊhídou]	[hìrəhí:təʊ]	裕仁 (昭和天皇)
	[híroʊhídou]		
Hiroshima	[hìrou]ímə]	[hìrɔ́]ímə(r)]	広島
	[hìróʊ]əmə]	[hìrɔ́]əmə(r)]	
		[hìrə]í:mə(r)]	
Hokkaido	[həkáɪdòʊ]	[həkáɪdəʊ]	北海道
hokku	[hókù]	[hóku:]	発句
	[hókù]		
honcho	[hán(t)ʃou]	[hóntʃəʊ]	班長
Honda	[hánda]	[hónda(r)]	ホンダ
Honshu	[hánʃu]	[hónʃu:]	本州
ikebana	[ikəbána]	[ikɪbá:nə(r)]	生け花
		[ikəbá:nə(r)]	
		[i:keɪbá:nə(r)]	
Ishiguro	[íʃígúróʊ]	[íʃígúəɾəʊ]	イシグロ (カズオ)
	[íʃígúróʊ]		
Ito	[ídòʊ]	[í:təʊ]	伊藤 (博文)
judo	[dʒúdou]	[dʒú:dəʊ]	柔道
judoka	[dʒúdoukà]	[dʒú:dəʊkə(r)]	柔道家
	[dʒúdouká]		
jujitsu	[dʒùdʒítsu]	[dʒú:dʒítsu:]	柔術
jujutsu	[dʒùdʒítsu]	[dʒú:dʒítsu:]	柔術
juku	[dʒóku]	[dʒóku:]	塾
kabuki	[kəbúki]	[kəbú:ki]	歌舞伎
Kagoshima	[káɡə]ímə]	[káɡə]í:mə(r)]	鹿児島
kakemono	[kàkəməónou]	[kà:kiméónəʊ]	掛け物
	[kækəməónou]	[kà:kəməónəʊ]	
kamikaze	[kàməkázi]	[kàmɪká:zi]	神風

		[kàməká:zi]	
kana	[kánə]	[ká:nə(r)]	かな
kanban	[kánbàn]	[kánban]	看板
kanji	[kándʒi]	[kándʒi]	漢字
Kano	[kánou]	[ká:nəu]	狩野
karaoke	[kèrióuki]	[kàrióuki]	カラオケ
		[kàrəóuki]	
karate	[kərádi]	[kərá:ti]	空手
katakana	[kàdəkánə]	[kàtəká:nə(r)]	カタカナ
Kawasaki	[kàwəsáki]	[kàwəsá:ki]	川崎
		[kà:wəsá:ki]	
		[kàwəsáki]	
ken	[ken]	[ken]	県
kendo	[kéndou]	[kéndəu]	剣道
kimono	[kəməónou]	[kiméonəu]	着物
	[kəməónə]	[kəməónəu]	
Kinki	[kíŋki]	[kíŋki]	近畿
Kirin	[kírɪn]	[kíɪrɪn]	麒麟
koan	[kóuàn]	[kéuan]	(禪宗の) 公案
Kobe	[kóubi]	[kéubi]	神戸
		[kéubei]	
koi	[kɔi]	[kɔi]	鯉
koto	[kóudou]	[kéutəu]	琴
Kumamoto	[kùməmóudou]	[kù:məméutəu]	熊本
	[kùməmóudou]		
Kurosawa	[kòrəsáwə]	[kòrəsá:wə(r)]	黒澤 (明)
Kyoto	[ki(j)óudou]	[kíóutəu]	京都
	[ki(j)óutòu]		
Kyushu	[kijú:u]	[kíú:fu:]	九州

		[kjú:ju:]	
Matsui	[mætsúi]	[matsú:i]	松井 (岩根)
matsuri	[mætsú:ri]	[matsú:ri]	祭り
Matsushita	[mætsú:jidə]	[matsu:jitə(r)]	松下
Matsuyama	[mætsəjámə]	[matsu:jámə(r)]	松山
		[mætsəjámə(r)]	
Meiji Tenno	[meridʒi ténòu]	[mèidʒi ténəu]	明治天皇
	[meridʒi ténòu]		
mikado	[mækádou]	[míkádəu]	帝
		[mækádəu]	
Mitsubishi	[mitsubí:]	[mitsubí:]	三菱
		[mitsəbí:]	
mizuna	[mæzúnə]	[mizú:nə(r)]	水菜
		[mæzú:nə(r)]	
Nagasaki	[nægəsáki]	[nægəsá:ki]	長崎
Nagoya	[nægó:rə]	[nægó:rə(r)]	名古屋
Nara	[ná:rə]	[ná:rə(r)]	奈良
netsuke	[néts(ʊ)ki]	[néts(ʊ)ki]	根付け
ninja	[níndʒə]	[níndʒə(r)]	忍者
ninjutsu	[níndʒótsù]	[níndʒʌtsu:]	忍術
Nintendo	[nínténdou]	[nínténdəu]	任天堂
Nippon	[nípən]	[nípən]	日本
Nipponese	[nípəniz]	[nípəniz]	日本人 (の)
nisei	[niséi]	[ni:sei]	二世
Nissan	[nísan]	[nísan]	日産
no, Noh	[nou]	[nəu]	能
Noguchi	[nougút:]	[nogú:t:]	野口 (英世, イサム)
		[nəgú:t:]	
nunchaku	[nəntʃáku]	[nʌntʃáku:]	ヌンチャク

obi	[óubi]	[ʰubi]	帯
origami	[ʔrəgámi]	[ðrígá:mi] [ðrəgá:mi]	折り紙
Osaka	[ousákə]	[əusá:kə(ʔ)]	大阪
Ozawa	[ouzáwə]	[ɒzá:wə(ʔ)]	小沢 (征爾)
pachinko	[pətʃĩŋkou]	[pətʃĩŋkəu]	パチンコ
raku	[rákù]	[rá:ku:]	楽焼
ramen	[rámèn]	[rá:mèn]	ラーメン
romaji	[róumədʒi]	[rəumədʒi]	ローマ字
ronin	[róunən]	[rəunin]	浪人
ryokan	[riókən]	[ríókən] [ríoskan]	旅館
ryu	[riú]	[riú:]	(何々) 流
Sakai	[sákai]	[sá:kai]	境
sake	[sáki]	[sá:ki] [sákei]	酒
samisen	[sáeməsèn]	[sámisen]	三味線
samurai	[sáemərai]	[sám(j)ɔrɒi] [sám(j)ərɒi]	侍
Sanyo	[sáenjɔu]	[sánjəu]	三洋
Sapporo	[səpórou]	[səpó:rəu]	札幌
sashimi	[saʃimi]	[sáʃimi]	刺身
satori	[sətóri]	[sətó:ri]	悟り
satsuma	[sætsúmə] [sætsəmə]	[satsú:mə(ʔ)]	薩摩焼き
Sendai	[séndaɪ]	[séndaɪ]	仙台
seppuku	[sépukù] [səpúkù]	[sepú:ku:]	切腹
Shaka	[ʃákə]	[ʃá:kə(ʔ)]	釈迦



	[ʃækə]		
shakuhachi	[ʃákuhátʃi]	[ʃáku:há:tʃi]	尺八
		[ʃákuhátʃi]	
shiatsu	[ʃiátsù]	[ʃiá:tsu:]	指圧
		[ʃiátsu:]	
Shikoku	[ʃəkóukù]	[ʃi:kəuku:]	四国
	[ʃəkákù]		
Shinto	[ʃín(t)ou]	[ʃíntəu]	神道
shogun	[ʃóugən]	[ʃəugʌn]	将軍
		[ʃəug(ə)n]	
shogunate	[ʃóugənət]	[ʃəugəneɪt]	将軍職
	[ʃóugənèit]	[ʃəugneɪt]	
		[ʃəugənət]	
		[ʃəugɹət]	
shoyu	[ʃóuju]	[ʃəju:]	醤油
Soto	[sóudou]	[ʃəutəu]	曹洞宗
Subaru	[súbərũ]	[sú:bəru:]	スバル
		[səbá:ru:]	
		[səbá:ru:]	
sukiyaki	[søkijáki]	[sù:kijá:ki]	すき焼き
		[søkijá:ki]	
		[sù:kijáki]	
		[søkijáki]	
Sumitomo	[sùmətóumou]	[sù:mitóuməu]	住友
sumo	[súmou]	[sú:məu]	相撲
sushi	[súʃi]	[sú:ʃi]	寿司
Suzuki	[səzúki]	[sozú:ki]	鈴木
		[səzú:ki]	
tanka	[tánkə]	[tánkə(ʀ)]	短歌

		[tá:ŋkə(r)]	
tatami	[tətámi]	[tətá:mi]	畳
		[tatá:mi]	
		[ta:tá:mi]	
tempura	[tempúra]	[tempúra(r)]	てんぷら
	[témpərə]	[témp(ə)rə(r)]	
tenno	[ténou]	[ténəu]	天皇
teriyaki	[tèrijáki]	[tèrjá:ki]	てりやき
		[tèrəjá:ki]	
		[tèrjáki]	
		[tèrəjáki]	
tofu	[tòufú]	[təufu:]	豆腐
Togo	[tóugou]	[təugəu]	東郷 (平八郎, 茂徳)
Tojo	[tóudʒou]	[təudʒəu]	東条 (英樹)
Tokugawa	[tòukugáwə]	[təukugá:wə(r)]	徳川
Tokyo	[tòukiou]	[təukiəu]	東京
torii	[tórii]	[tóri:]	鳥居
tsunami	[(t)sunámi]	[(t)suná:mi]	津波
Tsushima	[(t)su]ímə]	[(t)su]í:mə(r)]	対馬
ukiyo-e	[ùkijoujéi]	[ù:kiɰəujéi]	浮世絵
Yagi antenna	[jági ənténə]	[jági ənténə(r)]	八木アンテナ
yakuza	[jakúzə]	[ja:kú:zə(r)]	やくざ
		[jəkú:zə(r)]	
Yamaha	[jáməhà]	[jáməha:(r)]	ヤマハ
Yamamoto	[jámə móudou]	[jáməməutəu]	山本 (五十六)
Yayoi	[jájoi]	[já:joi]	弥生
yen	[jɛn]	[jɛn]	円
yoga	[jóugə]	[jóugə(r)]	ヨガ
Yokohama	[jòukəhámə]	[jòukəhá:mə(r)]	横浜

yokozuna	[jòukəzúnə]	[jəukəzú:nə(r)]	横綱
zaibatsu	[zaibátsu]	[zAɪbátsu:]	財閥
zazen	[zazén]	[za:zén]	座禪
Zen	[zén]	[zén]	禪
zori	[zóri]	[zó:ri]	草履
		[zóri]	

## 使 用 辞 典

『ジーニアス英和大辞典』(2001)

『研究社新英和大辞典』第5版(2000)

『研究社新英和大辞典』第6版(2002)

*Longman Dictionary of Contemporary English* (1993)

*Longman Pronunciation Dictionary* (2000)

*The Oxford Dictionary of Pronunciation for Current English* (2001)

*The Oxford English Dictionary* (1989)

*Webster's Third New International Dictionary* (1993)

*Random House Webster's Unabridged Electronic Dictionary* (1996)

## 参 考 文 献

Chomsky, N. and M. Halle (1968) *The Sound Pattern of English*, Harper & Row.

Kahn, D. (1976) *Syllable-Based Generalization in English Phonology*, Doctoral dissertation, MIT.

小林泰秀 (2001) 「英語の音節構造は両音節性か再音節性か」『広島女学院大学大学院言語文化論叢』第4号, 1-28.

小林泰秀 (2001) 「英語借用語の発音」『広島女学院大学英語英米文学研究』第9号, 59-87.

小林泰秀 (2002) 「英語辞典にある日本語の発音 (1)——『研究社新英和大辞典』より——」『広島女学院大学英語英米文学研究』第10号, 39-69.

小林泰秀 (2002) 「英語辞典にある日本語の発音 (2)——『研究社新英和大辞典』第5版と第6版の比較——」『広島女学院大学英語英米文学研究』第11号, 133-67.

Selkirk, E. O. (1982) The Syllable, *The Structure of Phonological Representations (Part II)*, ed. by H. v. d. Hulst and N. Smith, 337–83, Foris.